

AIの70年：過去の冬から2026年の革命へ

1956年の誕生から2度の「冬の時代」を経て、AIは今、社会の基盤を根本から変える革命前夜にあります。
このインフォグラフィックは、過去の長い道のりと、目前に迫る2026年の創的な変化を対比して描き出します。

過去：長い道のりと2度の冬



1956年：AIの誕生

ダートマス会議で「人工知能」という言葉が誕生。主観的な予測とは裏腹に、道のりは険しかった。

最初のブームと冬： パーセプトロンの熱狂と挫折

学習する機械への期待が高まるも、数学的な限界の証明により最初の「冬の時代」へ。

最初のブームと冬： パーセプトロンの 熱狂と挫折

学習する機械への期待が高まるも、数学的な限界の証明により最初の「冬の時代」へ。

2度目のブームと冬： エキスパートシステムの 成功と限界

専門家の知識を模倣し隠微的に成功したが、知識獲得の困難さから再び停滞期に。

未来：2026年 革命前夜



自律型エージェントの登場： AIが自ら思考し、タスクを 完結

人間の指示を超え、目的設定から実行までを追う「デジタルの分身」が活動を開始。

知能のインフラ化： AIが電気や水のように 社会基盤となる

誰でも安価に最高の知性を利用可能になり、産業構造が根本から変わる。

自律型エージェントの登場： AIが自ら思考し、 タスクを完結

人間の指示を超え、目的設定から実行までを司る「デジタルの分身」が活動を開始。

人間の価値の再定義： スキルから 「意志」と「問い」へ

AIが知的作業を代替する中、何を成し遂げたいかという目的意識が最も重要になる。

DXの岐路：日本の活路は「TPS × デジタル」にあり

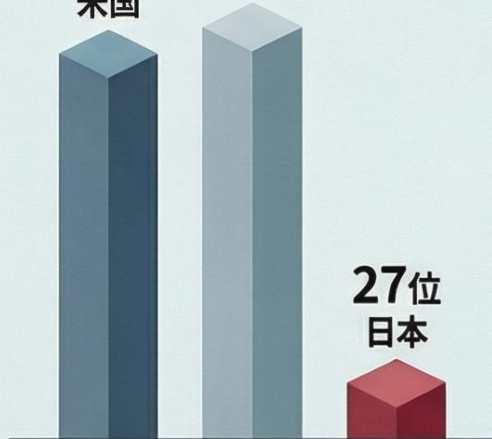
「デジタル敗戦」—— 日本が直面する課題

「デジタル敗戦」

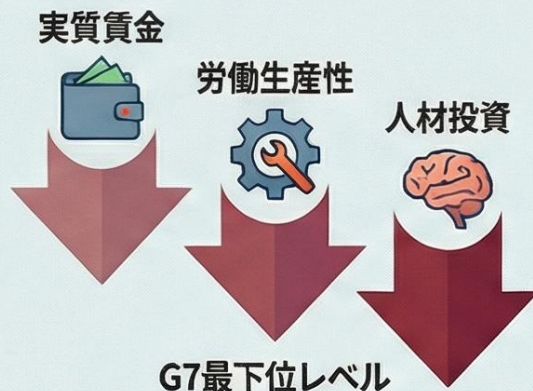


IMD世界デジタル競争力、
日本は27位(2020年)

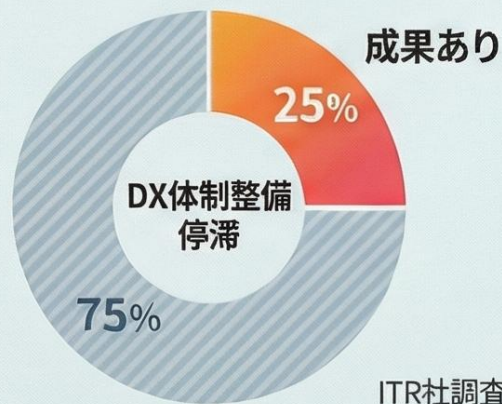
1位 米国
2位 シンガポール



G7で最低水準の経済指標



停滞する企業のDX、
成果を出す企業は僅か25%



「TPS × DX」—— 日本の勝ち筋

2つの強みの融合：
TPS (アナログの極致) ×
DX (デジタルの極致)

TPSの2本柱：
「ジャスト・イン・タイム」
と「自動化」

